

平成 28 年 4 月 13 日改定

大岩 3 区の KW 氏より、下記の「身延線鉄道唱歌」の歌詞をいただきました。この歌詞は、KW 氏の知り合いの「小澤 肇」氏が作られたものだとのこと。小澤氏は富士市在住、平成 28 年 3 月現在で 91 歳。電話によりご本人と話をし、この歌詞のホームページや SNS 掲載の許可を得ました。

また、より多くの人々の口に上るように、多少の言葉の変更も許可していただきました。例えば歌の中で、富士宮駅を「ふじみやえき」と呼ぶべきか「ふじのみやえき」と歌うべきか、はたまた「ふじのみや」とどめたほうがよいか。他にも七五調におさまらないところ、その土地を良く知る者には、この駅名にはこの事績の方がより愛着が湧く、などの、多くの人々の気持ちや意見も聞きながら、微調整し、皆さんに親しまれるものにしてゆきたいと思えます。

ただ、原作者の小澤 肇氏は、作詞に当たり、各駅付近の現地の図書館等にもおもむいて相当の研究を重ねたそうです。小澤氏の郷土愛や詩情、最初にこれを書きあげた独創性は素晴らしいもので、そのお名前は原作者として必ず残したいと考えます。また、皆様協力、完成の暁には、種々の利用の仕方も教えていただければと思います。諸賢のご意見・ご協力をお願いいたします。

ほうぼうの方々に、推敲をお願いしています。今回の一部改訂は、主として、富士宮市教育部文化課の渡井一信様のサジェスションによるものです。

富士宮市大岩 3 区まちづくりプロジェクト代表 松田 壽久

鉄道唱歌（明治 33 年 5 月）地理教育鉄道唱歌 東海道編（歌詞は一番のみ掲載）

♪ 汽笛一声 新橋を はやわが汽車は 離れたり  
愛宕の山に入り残る 月を旅路の 友として

【身延線鉄道唱歌】 作詞 小澤 肇 作曲 上 眞行

- 1 汽笛一声 富士駅を わが乗る列車 離れたり (きてきいっせいふじえきをわがのるれっしゃはなれたり)  
三十九駅 九十軒 普通列車の旅とせん (さんじゅうきゅうえき くじゅうきろ ふつうれっしゃのたびとせん)
- 2 柚木 堅堀 入山瀬 富士梨 出場所 この辺り (ゆのきたてぼりいりやませ ふじなしでばしょこのあたり)  
三大仇討ち 一つなる 曾我兄弟の 寺社があり (さんだいだうちひとつなる そがきょうだいのじしゃがあり)
- 3 右に霊峰仰ぎつつ 富士根にたなびく 雲の帯 (みぎにれいほうあおぎつつ ふじねにたなびくくものおび)  
富士宮は 登山口 浅間大社に焼きそばに (ふじみやはとざんぐち せんげんたいしやにやきそばに)
- 4 西富士過ぎれば左に見ゆる 沼久保駅を「ぼくまぬけ」(にしふじすぎればさに見ゆる ぬまくぼえきを「ぼくまぬけ」)  
逆さに読んで 失礼す こちらで富士山 さようなら (さかさによんでしつれいす こちらでふじさん さようなら)
- 5 三大急流富士川に 沿って行きます芝川は (さんだいきゅうりゅうふじかわに そってゆきますしばかわは)  
筍・梅の産地なる自然の豊かな川の町 (たけのこ・うめのさんちなる しぜんのゆたかなかわのまち)
- 6 戦国武将信長公 首塚西山本門寺 (せんごくぶしょうのぶながこう くびづかにしやまほんもんじ)  
平家の落武者維盛の 墓が稲子の奥に在り (へいけのおちむしゃこれもりの はかがいなこのおくにあり)
- 7 稲子で駿河を後にして 甲州十島よいところ (いなこでするがをあとにして こうしゅうとうしまよいところ)  
義民で命かけた人 佐倉惣五郎出たところ (ぎみんでいのちかけたひと さくらそうごろうでたところ)
- 8 井出では寄りはた内船へ 南部の火祭り空焦がす (いでてはよりはたうつづなへ なんぶのひまつりそらがす)  
奥州南部の祖の地なり 遺風は今に伝えらる (おうしゅうなんぶのそのちなり いふうはいまにつたえらる)
- 9 身延の駅に降り立ちて 日蓮宗の総本山 (みのぶのえきにおちたちて にちれんしゅうのそうほんざん)  
五重の塔の再建に 枝垂れ桜が花添える (ごじゅうのとうのさいけんに しだれざくらがはなそえる)

- 10 信玄公の隠し湯の 下部で疲れ癒されん (しんげんこうのかくしゆの しもべでつかれいやされん)  
湯の奥甲州金山は 武田氏支えた軍資金 (ゆのおくこうしゅうきんざんは たけだしささえたぐんしきん)
- 11 全国各地に木像を 遺せし木喰上人の (ぜんこくかくちにもくぞうを のこせしもくじきしょうにんの)  
生れは古関微笑館 山の上でも人絶えず (うまればふるせきびしょうかん やまのうえでもひとたえず)
- 12 市の瀬久那土甲斐岩間 印章で名高き町なれや (いちのせくなどかいいわま いんしょうでなだかきまちなれや)  
向いの西島和紙作り 書家の望みの叶う町 (むかいのにしじまわしつくり しょかののぞみのかなうまち)
- 13 視界が開けて鯉沢 舟運の名残り今はなく (しかいがひらけてかじかざわ しゅううんのなごりいまはなく)  
敷かれし鉄路に抛る処 甲駿交流夜明けなり (しかれしてつろによるどころ こうすんこうりゅうよあけなり)
- 14 市川大門本町 知恵の文殊の名も高く (いちかわだいもんほんまち ちえのもんじゆのなもたかく)  
市川団十郎の出した所 夢々共々忘れなん (いちかわだんじゅうろうのでたところ ゆめゆめともどもわすれなん)
- 15 笛吹川を打ち渡り 見よや果樹やら野菜やら (ふえふきがわをうちわたり みよやかじゆやらやさいやら)  
果樹王国と謳わるる 甲府盆地の花輪なる (かじゆおうこくとうたわるる こうふぼんちのはなわなる)
- 16 四方の山に目をやれば 雲突く山脈いや高く (よものやまにめをやれば くもつくやまなみやたかく)  
山紫水明善光寺 石和の湯けむり指呼の間 (さんしすいめいぜんこうじ いさわのゆけむりしこのかん)
- 17 終点甲府は中央線 乗り継ぐ人も数多く (しゅうてんこうふはちゅうおうせん のりつぐひともかずおおく)  
躑躅ヶ崎今も尚 武田の遺跡守れかし (つつじがさきいまもなお たけだのいせきまもれかし)
- 18 時は人を替えれども 山梨静岡両県の (ときはひとをかえれども やまなししずおかりょうけんの)  
明るく平和な郷づくり 身延線と共に栄えあれ (あかるくへいわなさとづくり みのぶせんとともにさかえあれ)  
身延線と共に栄えあれ (みのぶせんとともにさかえあれ)

#### 【身延線の沿革】

- |         |                                                                     |
|---------|---------------------------------------------------------------------|
| 1 創設の認可 | 明治 44 年 (西暦 1911 年) 4 月 26 日                                        |
| 2 社名    | 富士身延鉄道株式会社                                                          |
| 3 資本金   | 4 百万円                                                               |
| 4 工事着工  | 大正 2 年 1 月 8 日                                                      |
| 5 部分開通  | 大正 9 年 5 月 18 日 富士駅から身延駅まで汽車運行                                      |
| 6 全面開通  | 昭和 3 年 3 月 28 日 (1928 年)<br>富士駅～甲府駅 電車運行 88.4 k m                   |
| 7 国鉄移行  | 昭和 16 年 5 月(1941 年) 日本国有鉄道 線名を身延線とす                                 |
| 8 民営化   | JR 東海 昭和 62 年 4 月(1987 年)<br>社名 JR 東海道旅客鉄道株式会社                      |
| 9 付記    | 身延線全線開通 80 周年行事と併せて富士宮駅高架化着工祝賀行事富士宮駅で開催<br>平成 20 年 4 月 6 日 (2008 年) |

#### 【この件に関する連絡先】

富士宮市大岩 3 区まちづくりプロジェクト代表  
富士宮市大岩 3 区文化部長

松田 壽久

T E L 070-6631-0623

メール ooiwa39@gmail.com